



大会終了後、チーム全員で記念撮影

コロナ禍でも部員を集めるために、SNSを使ってアイスホッケー部をアピール!

ただ、昨年はコロナ禍で3月から活動停止し、5月の関東大学アイスホッケーリーグ戦も中止となっていました。また、懸念となったのが新入部員の補充です。

アイスホッケーの試合はリンクで戦うのは6人ですが、20人までベンチ入りが可能です。体力の消耗が激しいため、何度も選手交代ができて、全員でプレーと交代を繰り返して試合を進めます。ただし本学アイスホッケー部の選手は12名。20名がベンチ入りするチームと比べ、個々の体力負担が大きくなるので、なるべく部員を補充したいのです。しか

し、勧誘活動がままならない状況…。すると広報を担当する金子さんが、4月からいち早く取り組みを始めます。「部の公式Twitter、インスタグラム、LINEを使い、何度も“都市大にはアイスホッケー部がある!”とアピールしました。履修登録が不安との新生生の声を聞き、公式SNSを通じてアイスホッケー以外の相談にも乗って、少しでもアイスホッケー部に興味を持ってもらう努力をしました」。部長の秋草君は「選手として、非常にありがたかったです。5月、6月、その後も継続してくれて、頭が下がる思いです」と振り返ります。

マネージャーの努力に意欲が高まる選手達。2021年の目標は3部リーグへの昇格

こうしたSNSでの勧誘活動を見ていた大倉さんは、「週替わりのインスタライブで活動内容や部員紹介など、熱心にアイスホッケー部の存在をアピールしていて、部内の魅力的な雰囲気が伝わってきました。練習再開はしていませんでしたが、6月にマネージャーとして入部を決めました」。さらには選手の入部も決まり、金子さんは「諦めずにオンラインでも、勧誘を続けてきてよかった」、と笑顔を見せます。「金子さんは2020年のMVPですね。大変な時期に先頭に立って部員勧誘に努めてくれて、他の仕事も完璧にこなしてくれる。SNSを通じて入部を決めてくれた大倉さんも2020年の象徴で、仕事も積極的に覚えてくれて順応が早い。選手はマネージャーの頑張りに応えたい、勝利を届けたいと意気込んでいます」(秋草君)。最後にチームのエースである五十川君が今後の目標を話してくれました。「僕が入学した2018年に3部リーグから4部に降格し、そのままずっと3部に上がれずにいるのが悔しい。昨年はコロナ禍により公式戦は全て中止となってしまい

したが、部員一同の団結力やモチベーションは維持できています。2021年はどうなるかまだわかりませんが、リーグ戦が開催されたら先輩たちの果たせなかった目標、3部リーグ昇格を成し遂げたいと思っています」。

いかなる状況でも、チーム一体となって邁進していくアイスホッケー部。今後の躍進にも大いに期待が膨らみます!



和気あいあいと行われた、4年生を送る懇親会